

朝日 里山 ファーム

石岡市新規就農者
研修農場

石岡市で農業はじめよう!

新規就農者INTERVIEW

いしおか 就農ストーリー

第4期生 果樹・施設園芸コース

安藤雄太さん



美しい自然に囲まれて
一生続けられる仕事があったい：
就農に迷いはありませんでした。

一生続けられる仕事があったい：
都会での生活を捨て就農を決意

朝日里山ファームでいちごを生産する安藤さんは、横浜で複合機などを扱う商社に勤めていました。しかし、都会で生活する息苦しさから、サラリーマンを辞める

タイミングをいつも探していたそうです。「大好きな自然に囲まれて、一生続けられる仕事に就きたい：」真っ先に頭に浮かんだのが農業でした。

しかし、農業に関する知識は皆無。悩んだ末に、現在もお付き合いしている彼女に相談しました。すると彼女の父親が茨城県

在住で、朝日里山学校に知人がいるとのこと。全く迷いはありませんでした。茨城県への移住を決意し、とりあえず農業の基礎を学ぼうと、水戸市内原町にある日本農業実践学園に入学。1年間学んだ後、県内いちご農家での研修や農業法人での勤務を経て、令和2年の4月、朝日里山ファームの研修生になりました。

「就農するために必要な手続きや土地探しなど、全般的に支援していただきました。このような制度が無かったら、とても農業なんて始められなかったと思います。」ご家族の皆さんも、安藤さんの就農を後押し。この春には、横浜で暮らしている祖父母が茨城県に移住し、いちごの生産を手伝う予定になっているそうです。

実の息子と同じだと言ってくれた
指導農家さんの言葉に感激

安藤さんが最初に手掛ける作物としていちごを選んだポイントは、見た目がきれいで美味しいところ。そして何より、子どもたちにも人気のある、手軽で身近な果物だからです。「小さなお子さんがいちご

ごを食べ、もう一つちごうたいって言ってくれたりするんです。いちごを育てていて本当に良かったと思える瞬間



ですね。」

研修内容は、指導農家さんのもので、お手伝いをしながら、独立するための知識と技術を身に付けること。いちごの生産に初めて携わる安藤さんにとって、独特な栽培方法は驚きの連続でした。「一番驚いたのは、害虫駆除の方法です。出来る限り薬は使わない方針なので、天敵昆虫を使用するんです。例えば、アブラムシにタマゴを産みつけるハチを使ったり、悪さをするダニには、そのダニを食べる肉食性のダニを使う。いちごにも人体にも全く無害な駆除方法で、健康ないちごを育てています。」

また、指導農家さんとの関係も、とても良好だそうです。「どのような方なのか少しだけ不安でした。でも、最初にお会いしたときに『安藤くんは俺の息子みたいなものだから、ぜひ頑張ってください』って言ってくださったんです。」近隣のいちご農家さんも優しい方ばかりで、とても頼りになる存在だと話していました。

夢を叶えるためには
迷わずに進むことが大切

安藤さんには今後に向けて、様々な計画があります。作付け面積を増やすことはもちろん、将来的にはブルーベリーの生産も手掛けたいとのこと。春のいちご狩りと夏のブルーベリー狩りで、より地域を活性化

化したいという思いからです。

さらに、移動販売にも関心があるそうです。「トレイルラン大会の開催やサイクリングコースの充実など、石岡市には全国から人が集まるイベントやスポットが沢山あります。そこで冷凍したいちごなどを販売すれば、訪れた方々に喜んでいただけるのではないかと思います。」

将来の目標は、食堂をオープンすること。「育てた果物や地元の食材を活かして、美味しいメニューを開発したいですね。生産加工、販売をトータルで手掛ける6次産業

を実践してみたいと思っています。」

もちろん、どれも簡単に実現出来るものではありません。しかし、やりたいと思うことも事実です。「農業はそんなに甘いものじゃないって言われることもありま。でも、本気でやりたいと思ったら、誰に何を言われても関係ありません。迷わずに進むことが大切だと思います。」安藤さんの力強い言葉と、穏やかな笑顔が印象的でした。

新規就農者INTERVIEW
いしおか就農ストーリー



第4期生 果樹・施設園芸コース

安藤 雄太さん



第1期生 小林ご夫妻

朝日里山ファームについて

コンセプト

県内初、担い手を育てる産地へ

朝日里山ファームは、農業で独立を目指す青年の研修農場です。石岡市柴内にある体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、有機農業（有機農業コース）の圃場として整備しました。

また、令和2年度から果樹・施設園芸コースを新設し、果樹などの研修制度をスタートしました。

施設概要

- 有機農業圃場 1.6ha
- パイプハウス 2棟
- 資材ハウス 1棟
- 作業場・加工施設 1棟
- トラクター・管理機など農作業機材

※果樹・施設園芸コースは、品目に合わせて圃場を用意します。



新規就農者研修制度

持続的な地域農業のために

有機農業コースでは、研修に必要な圃場、トラクターなどの機材や設備が揃っています。また、栽培については豊富な知識と技術をもった就農指導員が実践的な指導を行うほか、JAやさと有機栽培部会員が自分の経験を生かしたサポートを行います。

果樹・施設園芸コースでは、生産農家が指導員になり、技術の習得や経営面のサポートをします。

就農指導員は、研修終了後の農地の確保や住居の斡旋など、さまざまな問題に対する相談も行い、研修生の独立をあらゆる面でサポートします。



資格・条件など

- 1 研修生となる資格は「農業でやっていく」という強い気持ちがあること。年齢は45歳まで。
- 2 研修開始までに市内に移住し、居住することが確実であると見込まれる者。
- 3 研修は2年間。毎年1組ずつ受け入れるため、同時期に2組が研修を行うこととなる。
- 4 研修農場、パイプハウス、トラクターなどの農機具や資材は朝日里山ファームが提供する。
- 5 研修終了後は、市内で就農する。

国の支援制度により、就農前の研修を支援します。研修を終えた独立直後の経営を支援する制度[※]も用意しています。
※市町村から認定を受ける「認定新規就農者」が対象。



第5期生 有機農業コース

渡邊 拓海さん 若菜さん



今年、東京都から移住された渡邊さんご夫妻。千葉大学園芸学部で学んだお二人は、農業に高い関心を持っていました。

就農を決めたきっかけは、朝日里山ファームを紹介したテレビの情報番組。もともと農業をやりたいかつた拓海さんは「このシステムなら就農出来るかもしれない」と会社を辞め、研修生になる決心をしました。

「有機農法で、心から安全だと言える作物を生産したいですね」と語る拓海さん。

若菜さんは「農業は一生続く仕事なので、無理しすぎず楽しくやっていきたいです」と笑顔

を見せていました。



さあ、石岡市で夢をかなえよう

超実践的。有機栽培農家を目指す。

ゆめファームやさと

新規就農研修制度

毎年農家が増え、継続的に農業が営まれる

JAやさとが運営する、ゆめファームやさと研修制度は、就農希望者支援と地域農業担い手育成のために行なっている事業です。毎年家族を受け入れ、実践的な研修を2年間行なった後、地域の生産者として活躍していただきます。

これまで
20家族が
有機野菜生産者
として独立

- 1 研修生となる資格は既婚者で家族単位での応募であること。年齢は45歳まで。(研修後は、八郷地区内で独立する。)
- 2 研修は2年間。毎年1家族ずつの受け入れがあるため、同時期に2家族が研修を行うこととなる。
- 3 研修農場(1.5ha)、パイプハウス、トラクター、管理機などの農耕具や資材はJAやさとが提供する。
- 4 研修生は栽培から販売まで自分で行う。栽培に必要な技術は実技を通して身につけ、また不十分な部分についてはJAの有機栽培部会での生産者仲間へ相談したり、指導を受けたりすることで学んでいく。
- 5 国の支援制度により、就農前の研修を支援します。



農業法人で働きながら技術習得!

やさと菜苑株式会社

地域担い手育成事業

同社の地域担い手育成事業は将来的に農業で自立する意思のある方を正社員として受け入れ、地域の生産者として育成することが目的です。設立以来14名を受け入れ、これまで11名が農家として独立しました。今後も積極的に研修生受け入れ、地域農家の育成を目指します。

【研修の目的】

- 1 農作業の習得
- 2 価格、販売動向などを踏まえた計画的農産物生産の習得
- 3 農地を有効利用した農法・品質向上方法の習得

これまで
14名を受け入れ、
11名が独立



石岡市の魅力

石岡市は、肥沃な大地と温暖な気候にめぐまれ、東京都心から約70kmという優位性を生かしながら、

米、野菜、果樹など、幅広い農業生産が行われています。

特に、きゅうりを始めとした施設野菜、小菊などの露地花き類、

れんこんなどの湛水性野菜の生産が盛んです。

また、柿や梨などの果樹類の生産と、

近年では有機農業が盛んであり、首都圏で高い評価を得ています。

石岡市の特産



いちご

直売や市場出荷、観光いちご園なども盛んで、いばらキッスやとちおとめなどを生産しています。



柿

昔から生産が盛んで、特に柿の王様と呼ばれる富有柿は皇室にも献上されています。



梨

八郷地区は県内有数の梨の産地で、青果物銘柄指定産地に指定されています。



きゅうり

表皮が薄くみずみずしい、昔ながらのブルームきゅうりなどが生産されています。



有機野菜

70年代から八郷地区に広がり、県内有数の有機野菜産地となっています。



小菊

県の銘柄産地の指定を受け、年間約350万本が出荷されています。



1 朝日里山ファーム

〒315-0143 茨城県石岡市柴内630 TEL.0299-51-3117

2 【ゆめファーム研修圃場】 やさと農業協同組合

〒315-0116 茨城県石岡市柿岡3594-1 TEL.0299-44-1661

3 【やさと菜苑研修圃場】 やさと菜苑株式会社

〒315-0122 茨城県石岡市東成井1333-3 E-mail 8310saien@gmail.com



【相談窓口】 石岡市新規就農者支援センター（石岡市役所農政課内）

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680-1 TEL.0299-43-1111 FAX.0299-43-6384